

目 次

1	位置	1
2	沿革	1
3	組織体制	1
	(1) 組織概要	
	(2) 職員数	
	(3) 業務分担	
4	事業概要	5
	(1) 当初予算	
	(2) 面積・建物・施設設備	
	面積	
	主要施設	
	主要機器	
5	研究計画	8
	(1) 基本方針と目標（課題計画一覧表）	
	(2) 平成21年度実施課題	
	課題一覧	
	課題内容	
	(3) 平成20年度終了課題報告	
6	主要行事・会議等	27
	(1) 主要行事・会議	
	(2) 研究管理のための場内会議・検討会	
7	技術支援	28
	(1) 委員委嘱	
	(2) 講師派遣	
	(3) 受入研修	
	インターンシップ事業	
8	研究成果の発表・広報	29
	(1) 主要刊行物の発行状況	
	(2) 不定期刊行物の発行状況	
	(3) 実用化できる試験研究成果(平成17年度試験研究成果)	
	(4) 学会誌・研究会誌等	
	(5) 学会発表・研究会発表	
	(6) 雑誌等への掲載	
	(7) 新聞等への掲載	
	(9) ホームページの更新・アクセス数	
9	知的財産	32
	(1) 特許関連一覧	
10	職員の研修	33
11	視察・見学・総合学習	33



## 1 位置

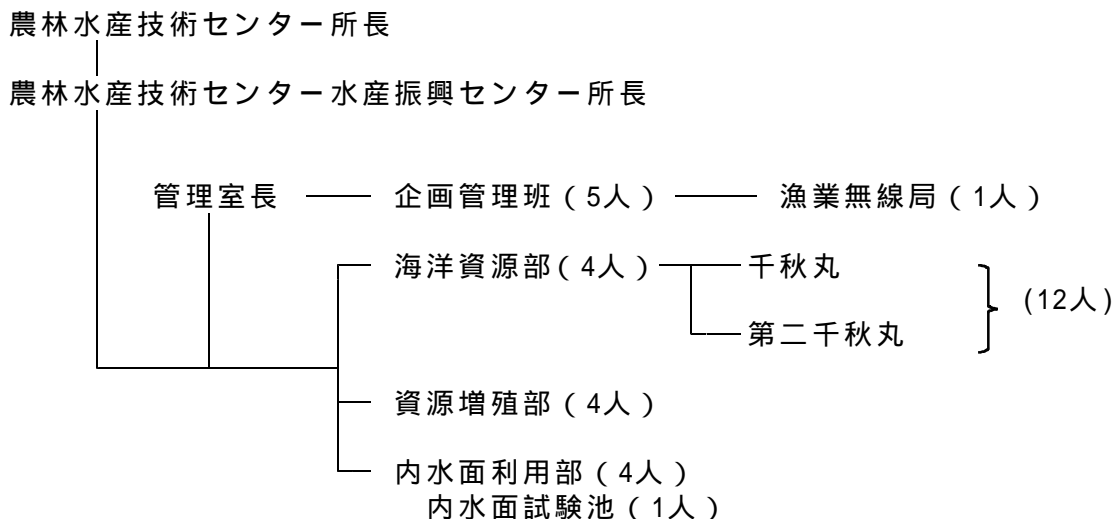
水産振興センター 秋田県男鹿市船川港台島字鶴ノ崎8番地の4  
内水面試験池 秋田県北秋田市阿仁中村字戸草沢67

## 2 沿革

- 明治33年 : 水産試験場設立認可、南秋田郡土崎港御倉町に設立
- 明治35年 : 南秋田郡土崎港相染新田に移転
- 大正11年 : 南秋田郡土崎港町に新庁舎を建設
- 昭和15年 : 南秋田郡船越町に八郎湖養殖部を設置
- 昭和25年 : 南秋田郡船川港町に廃止となった国立水産試験場秋田分場の庁舎を得て移転
- 昭和32年 : 男鹿市船川港に新庁舎を建設
- 昭和36年 : 男鹿市船川港に水産講習所を設置
- 昭和40年 : 水産講習所を廃止し、沿岸漁民研修所を設置
- 昭和41年 : 男鹿市戸賀に水産種苗供給所、沿岸漁民研修所を設置
- 昭和42年 : 南秋田郡八郎潟町に八郎湖増殖指導所を設置
- 昭和44年 : 水産種苗供給所を水産試験場戸賀分場と改称
- 昭和47年 : 八郎湖増殖指導所を内水面水産指導所と改称
- 昭和55年 : 男鹿市船川港台島に栽培漁業センターを設置  
水産試験場戸賀分場を廃止
- 昭和60年 : 男鹿市船川港台島に水産試験場、栽培漁業センター、沿岸漁民研修所を統合して水産振興センターを設置
- 平成 3年 : 内水面水産指導所を水産振興センターに統合
- 平成 5年 : 由利郡象潟町にアワビ種苗生産施設を設置
- 平成 6年 : 北秋田郡阿仁町中村に内水面試験池を設置
- 平成18年 : 組織統合に伴い、秋田県農林水産技術センター水産振興センターに改称

## 3 組織体制

### (1) 組織の概要



(2)職員数

平成21年5月1日

区 分	事務吏員	研究職員	技術吏員	海事職員	現業職員	計
所長		1				1
管理室長			1			1
企画管理班	3	1	1		1	6
海洋資源部		4		1 2		16
資源増殖部		3			1	4
内水面利用部		5				5
計	3	1 4	2	1 2	2	33

### (3)業務分担

	部 班	業 務 内 容	職 名	氏 名
		水産振興センターの総括	所長	遠藤 実
管理室		管理室の総括、試験研究推進の総括、機 関横断的な連携研究の促進	室長	中村彰男
	企画管理班	企画管理班の総括、文書主任、予算編成 ・執行の管理、各部・班の企画調整、研 究運営協議会及び試験研究課題評価、広 報活動	上席研究員（兼）班長	柴田 理
		人事・サービスの事務、文書副主任、予算編 成、監査、安全運転管理者、福利厚生、 安全衛生管理、公有財産	主査	杉沢 卓
		展示物等の管理、図書等資料整理業務、 庁舎・施設の維持管理補助	主事	伊藤 剛
		予算執行、公有財産、備品及び物品管理、 環境保全率先実行計画の推進、職員出張 支援システム、情報化リーダー	主事	太田浩輔
		漁業用海岸局、電波法関係	技師	天野正義
		庁舎・施設の維持管理、公用車の管理、 施設見学、図書室等資料整理業務、広報 活動、現場調査補助	技能技師	東海林善幸
		海洋資源部	海洋資源部の総括、千秋丸・第二千秋丸 の運行・管理、エチゼンクラゲによる被 害軽減対策、我が国周辺漁業資源調査	部長
		水産資源変動要因調査、我が国周辺漁業 資源調査、公共水域水質調査	主任研究員	佐藤時好
		ふるさとの海の恵みを守る研究、我が国 周辺漁業資源調査、大型クラゲ出現調査 及び情報提供事業、水産資源保護対策事 業	主任研究員	高田芳博
		水産資源変動要因調査、八タ八タ資源増 大技術開発、漁場保全対策事業、資源管 理型漁業推進総合対策事業	研究員	甲本亮太
	( 海事職員 )	千秋丸の保安管理・観測・調査	船長	佐藤 繁
		千秋丸の機関部管理・漁労機器操作管理	機関長	佐藤正則
		千秋丸の通信及び調査機器管理・通信事 務・船内事務	通信長	伊藤 保
		第二千秋丸の保安管理・観測・調査	船長	石黒常雄
		調査船業務全般	主任	西野悦夫
		〃	主任	船木正人
		〃	主任	石川 肇

	部 班	業 務 内 容	職 名	氏 名
	海洋資源部 ( 続 き )	調査船業務全般	技師	鎌田勝仁
		〃	技師	吉田正勝
		〃	技師	寺地 努
		〃	技師	田口重直
		〃	技師	船木勝美
	資源増殖部	資源増殖部の総括、栽培漁業協会に関する こと、栽培漁業施設の管理、イワガキ 資源の維持増大、海面増養殖(貝類等)	部長	山田潤一
		磯根漁場高度化利用化技術の確立、アユ 種苗生産、トラフグ種苗生産技術開発、 海面増養殖(海藻等)	主任研究員	斎藤和敬
		ハタハタ資源増大技術開発事業、ガザミ 種苗生産、トラフグ放流技術開発、海面 増養殖(魚類等)	研究員	佐藤正人
		餌料培養、種苗生産用親魚管理、種苗生 産・放流技術開発、栽培漁業施設・機器 の保守・維持	技能主任	秋山 博
	内水面利用部	内水面利用部の総括、水産資源に危害を 及ぼす生物の被害防除、サケ・マス資源 管理推進事業、内水面増殖指導	部長	渋谷和治
内水面試験地の管理運営、サケ・マス資 源管理推進事業、内水面総合技術開発試 験、サクラマス産卵場の保全と回復に関 する研究		上席研究員	古仲 博	
指定湖沼八郎湖の水族保全、内水面総合 技術開発試験、漁場環境保全推進事業、 魚類防疫対策事業、内水面養殖指導		上席研究員	伊勢谷修弘	
サクラマス産卵場の保全と回復に関する 研究、三大河川最重種アユの増大、十和 田湖観光資源ヒメマスの維持培養、魚類 防疫対策事業。		主任研究員	水谷 寿	
水質分析試験、指定湖沼八郎湖の水族保 全、漁場環境保全推進事業、十和田湖観 光資源ヒメマスの維持培養、薬品の管理		主任研究員	石垣 修	

#### 4 事業概要

##### (1) 当初予算

(単位：千円)

事業名	予算額	財源内訳			
		一般財源	国庫支出金	諸収入	使用料
給与費	282,116	282,116	0	0	0
管理運営費	38,885	35,500	0	3,371	14
研究施設維持管理費	38,281	38,272	0	9	0
特殊経費	14,040	14,040	0	0	0
指導普及費	2,226	1,542	684	0	0
研究推進活動費	2,836	2,828	0	8	0
研究・活動費	33,438	27,100	180	6,158	0
外部資金活用研究費	9,566	0	0	9,566	0
施設・設備整備費	7,115	7,115	0	0	0
計	428,503	408,513	864	19,112	14

##### (2) 面積・建物・施設設備

###### 敷地面積 (総面積 58,848.64㎡)

区分	面積 (㎡)
本館棟及び栽培漁業施設	35,826.24
船舶棟	3,600.00
戸賀施設	4,606.11
内水面試験池	13,106.93
その他	1,707.36
計	58,848.64

###### 主要施設

###### (本館棟及び栽培漁業施設)

名称	面積 (㎡)	構造
本館棟	2,207.22	鉄筋コンクリート3階建て
生物実験室	115.51	
化学実験室	141.32	
魚病実験室	68.43	
職員室	178.15	
電算機室	25.00	
実験水槽棟	450.00	鉄骨造り平屋建て FRP円形水槽30トン×2基 10トン×5基 5トン×2基
魚類甲殻類棟	520.05	シート角形水槽10トン×2基 鉄骨造り平屋建て
巡流水槽棟	720.00	鉄筋コンクリート製水槽50トン×10面 鉄骨造り平屋建て
魚類棟	837.80	鉄筋コンクリート製水槽20トン×2面 FRP巡流水槽11.5トン×10基 鉄骨一部鉄筋コンクリート造り2階建て 鉄筋コンクリート製水槽100トン×8面

( 続き )

名 称	面積 (m <sup>2</sup> )	構 造
ワムシ培養棟	540.00	鉄骨造り平屋建て 鉄筋コンクリート製水槽20トン×12面 5トン×6面
グリーン培養池	808.22	( 屋外 ) 鉄筋コンクリート製水槽80トン×1面 50トン×4面 25トン×5面
屋外種苗生産池	332.77	( 屋外 ) 鉄筋コンクリート製水槽100トン×8面
海水取水管		内外面ライニング鋼管 508mm、240m 着水層 鉄筋コンクリート造り40.8m <sup>3</sup>
揚水ポンプ棟	29.03	コンクリートブロック造り平屋建て 取水ポンプ (FPS型吸込渦巻ポンプ) (4トン/min×34m、37kw)×3台 真空ポンプ (NVD型水封式ポンプ) (0.1トン/min、0.4kw)×2台 送水管 (塩化ビニール製) 300mm×416m
海水濾過槽	120.96	鉄筋コンクリート造り平屋建て 200トン/hr×2基 (重力式濾過)
海水貯水槽	191.30	鉄筋コンクリート造り平屋建て 海水300トン×1基
海水・淡水貯水槽		鉄筋コンクリート造り平屋建て 海水200トン×1基、淡水100トン×1基
淡水取水施設	82.80	貯水槽 鉄筋コンクリート造り50トン 取水管 塩化ビニール製 100mm×220mm 取水ポンプ 10トン/hr×2台
淡水濾過槽		鋼製 1500mm×H1500mm 10トン/hr×1台
揚水コントロール槽	11.20	コンクリートブロック造り平屋建て 濾過槽逆洗用コンプレッサー (165リットル/min、15kw)×1台
機械棟	182.00	鉄筋コンクリート造り平屋建て 変電設備 発電機 125KVA 冷蔵庫 2.2kw、-40℃、4.4m <sup>2</sup> 冷凍庫 10.8kw、-50℃、21.2m <sup>2</sup> ブロワー10kw 10.0トン/min×1台 7.5kw 6.0トン/min×2台
ボイラー室	45.00	コンクリートブロック造り平屋建て 温水ボイラー 200,000kcal/hr×2台 160,000kcal/hr×1台



( 続き )

名 称	面積 (m <sup>2</sup> )	構 造
排水濾過槽	231.00	鉄筋コンクリート製 ( 530トン )
作業員詰所	175.86	木造平屋建て
車庫棟	206.25	鉄骨造り平屋建て
倉庫棟	252.00	鉄骨造り平屋建て
船舶棟	400.80	木造一部鉄骨造り平屋建て

( 内水面試験池 )

名 称	面積 (m <sup>2</sup> )	構 造
管理棟	91.91	木造平屋建て
試験棟	505.44	鉄骨造平屋建て FRP円形水槽 1トン × 26基 3トン × 10基 FRP角形水槽 1トン × 10基 アトキンス2k <sub>2</sub> 化槽 × 3基 " ( 増収型 ) × 3基
人工河川		流路延長 163.7m 上流域 52.1m 中流域 82.8m ( 魚道魚巢試験区 1.5 × 10 × 2m ) 下流域 28.8m
サクラマス親魚 養成池	122.17	
排水沈殿槽	55.65	鉄筋コンクリート製 166.95トン ( 2.65 × 21 × 3m )
屋外水槽		FRP円形水槽 30トン × 6基 10トン × 10基 FRP巡流水槽 30トン × 5基

### 主要機器

品名 ( 用途 )	主な利用部門
水中カメラ放送システム ( 水中撮影用 )	資源増殖部
水中カメラ放送システム ( 水中撮影用 )	海洋資源部
オゾン発生装置 ( 飼育水殺菌 )	内水面利用部
科学計量魚採用後処理システム ( 魚群解析 )	海洋資源部
モイストペレットマシン ( 餌料製造機 )	海洋資源部
第二千秋丸 ( 調査船 )	

## 5 研究計画

### (1)基本方針と目標

#### 現状と課題

栄養のバランスに優れた魚介類は、健全な食生活に不可欠なものであり、健康志向の高まりなどから安全で新鮮な水産物への需要が高まっている。

しかし、本県の水産業は、漁業就業者の減少と高齢化の進展、主要魚介類の資源水準の低下、幼稚仔の保育場や産卵場としての機能を有する藻場の減少、魚価の低迷などの厳しい状況にあり、県民に安全で新鮮な地場水産物を安定供給するためには、適正な水産物価格を維持するとともに、資源の増殖、適正管理が大きな課題となっている。

また、漁業生産の場である海、河川・湖沼は、近年のアウトドア志向の高まりから釣りを始めとするレクリエーションの場としての役割も重要となってきた。しかし、沿岸においては、ゴミの入網や漂着などが顕著になってきており、内水面においては自然な状態が保たれた河川・湖沼が減少し、オオクチバスなどの外来魚が急速に分布を拡大するなど、海面、内水面を通じて環境の改善と保全が大きな課題となっている。

#### 主要な試験研究目標

水産資源の特徴として、自己更新（自己再生産）する、変動が大きい、過剰漁獲に陥りやすい、などが挙げられる。また、水産資源は生物資源であることから、生産力は環境との対応により決定される。これらのことから、資源の持続的な利用を図るために、漁場環境の保全と資源の適正利用を基本に、資源の管理、資源の添加、養殖、漁場の整備などに関する調査・研究を実施する。併せて、試験研究体制を充実強化するとともに、県民の水産業に対する理解を深め、「あきた21総合計画」に基づき「資源を守り生かす漁業」を展開する。

具体的には、平成8年12月に策定した「秋田県水産振興センターの試験研究基本計画」に基づき、平成17年度に、水産関係試験研究目標及び水産振興センターの試験研究基本方針を策定し、目標達成に向けた研究のねらいと課題を短期（平成18～20年）、中期（21～23年）、長期目標（24～27年）に分けて定めており、その概要は次に示すとおりとなっている。

#### 漁場環境に関する研究

短期的には、沖合域の海洋観測による海況変動の予測手法の開発と漁海況情報の収集・広報を行うほか、大量来遊の恒常化が懸念されている大型クラゲについて、来遊状況を把握するとともにクラゲ選択漁具の開発などを行い、漁業者への情報提供に努める。

中期的には、沖合域の海洋観測によって漁海況の変動を予測し、漁況情報と合わせて関連性などの解析を行うほか、大型クラゲ選択漁具の実証試験や、加工利用などについて検討する。

長期的には、漁況の変動と漁場の形成を予報し、広報する。

#### 水産資源の管理技術に関する研究

短期的には、ハタハタ、マダイ、ヒラメ、カレイ類、ズワイガニなどの主要魚種の

資源状況を把握する。また、ホンダワラ類を主体とした食用海藻類の個体群動態と資源変動要因を明らかにする。

中期的には、主要魚種の資源変動要因を解明するとともに中底層トロール漁具や漁網監視装置などによる資源評価手法を開発する。また、食用海藻類の資源変動を監視するとともにその管理技術を開発する。

長期的には、主要な各魚種の資源評価方法を確立し、資源の持続的に利用するための管理方法を提示する。海藻資源については、資源添加技術を含めた漁場管理技術を確立し、資源増大を図る。

#### 水産資源の増養殖技術に関する研究

短期的には、マダイ、ヒラメ、クロソイ、ガザミ、アユの種苗を生産し、増養殖種苗に供するとともに放流効果を把握する。トラフグについては種苗量産・中間育成技術を開発するとともに、ハタハタに関しては放流効果を高めるための大型種苗生産技術の確立に取り組む。また、イワガキについて漁場の更新機構について研究するほか、海の森とそこに棲むウニやアワビなど植食動物を健全に維持するための技術開発を行う。

中期的には、マダイ、ヒラメ、ガザミの種苗生産について（財）栽培漁業協会へ事業移転を図るほか、トラフグの増殖技術を確立し、事業化に向けた検討を行う。ハタハタに関しては、放流種苗の成長と移動を把握することにより、放流時期や放流適地の検討を行う。イワガキでは、付着基質の表面剥離や外敵駆除などの増殖に関する応用技術を開発する。また、アワビを主体とした磯根資源の増産と維持を図るために、その効率的な管理手法を開発する。

長期的には、マダイ、ヒラメ、ガザミについて栽培漁業協会と連携し、放流効果の把握や効果向上のための技術開発を行うほか、トラフグについては事業化を図る。ハタハタについては、大型種苗の放流効果を検証するとともに天然資源の状況に対応した種苗生産・放流体制を確立する。また、藻場を中心とする磯根漁場を適切に管理する技術を確立し、磯根資源の増大を図る。

#### 内水面に関する研究

短期的には、八郎湖や十和田湖を含む河川・湖沼における有用魚種の資源生態や生息環境を明らかにするとともに生物多様性の保全を念頭におき、地域の希少種や固有種の保全に向けた生態の解明、外来魚の駆除技術を開発する。サケ・サクラマスについては、種苗放流による資源添加を行うとともに標識放流を行い、回帰状況を把握する。また、養殖魚などの魚病発生時には随時検査を行うとともに、その対応策や水産用医薬品の適正な使用を指導する。

中期的には、河川湖沼の各魚種において資源動向と環境要因との関係を解析するとともに地域の希少種や固有種など生態系の保全に配慮した内水面資源の管理技術、増殖技術を開発する。サケ・サクラマスにおいては、放流技術を確立するとともに回帰状況に基づいた資源の管理方法や天然水域における繁殖助長方策を明らかにする。

長期的には河川・湖沼における対象資源の管理・増殖手法の提示と外来魚駆除手法のマニュアル化を図るほか、サケ・サクラマスについて回帰率の向上による増殖コストの削減や増殖体制の充実化を推進する。また、魚類防疫体制を整備し、特定疾病などの予防と魚病対策を実施し、魚病被害を軽減する。

研究課題一覧表

場所名

水産振興センター

コアコンピタンスの分野(強化)	課題名・事業名	課題名・事業名	課題名・事業名
分野名: ハタハタを中心とした資源管理研究 コメント: 稚魚の移動経路及び新規加入量の把握、成魚の生息密度把握などとともに、資源管理制度の根幹をなす本魚種の資源量推定精度の向上に努力する。	水産資源変動要因調査(H13～28)	水産資源変動要因調査(H13～28)	水産資源変動要因調査(H13～28)
分野名: 磯根資源の増殖・資源管理に関する技術開発 コメント: 資源維持機構には不明な点が多いため、資源維持機構の解明を行い、その後モニタリング態勢を整備し資源管理へ移行することにより、その漁獲量を高位に安定させる。	磯根漁場高度利用技術の確立研究(アワビ資源)(H19～28) イワガキ資源の持続的利用に関する研究(H15～19)	磯根漁場高度利用技術の確立研究(アワビ資源)(H19～28) " (イワガキ資源)(H20～28)	磯根漁場高度利用技術の確立研究(アワビ資源)(H19～28) " (イワガキ資源)(H20～28)
分野名: 藻場の造成・利用に関する技術開発 コメント: 多年生海藻類の維持増大を目標とし、種別の年齢組成、分布密度などの把握とともに、藻場を利用する植食性動物のモニタリングを行う。海藻群落の資源変動要因を明らかにしアワビ等の合理的な利用手法の確立を目指す。	藻場の造成・利用に関する技術開発(H20～28)	藻場の造成・利用に関する技術開発(H20～28)	藻場の造成・利用に関する技術開発(H20～28)
分野名: サクラマス増殖技術開発 コメント: 小型種苗の放流技術の確立、天然再生産を活用した増殖手法の開発を目指し、その後、得られた増殖技術の受益者への定着を図るとともに、回帰率調査など増殖技術の維持を図るための研究を行う。	サクラマス・リバイバル事業(H11～28)	サクラマス・リバイバル事業(H11～28)	サクラマス・リバイバル事業(H11～28)
コアコンピタンスの分野(維持)	課題名・事業名	課題名・事業名	課題名・事業名
分野名: ハタハタ増殖技術開発 コメント: 資源維持・安定方策の一つとして、種苗放流による増殖技術開発を確立する。放流効果を明らかにし、その後事業化可能な技術水準への到達を目指す。	ハタハタ資源増大技術開発(H17～28)	ハタハタ資源増大技術開発(H17～28)	ハタハタ資源増大技術開発(H17～28)
分野名: 魚類防疫対策 コメント: 魚病のまん延防止という観点から継続して取り組む。	魚類防疫対策事業(S56～H28)	魚類防疫対策事業(S56～H28)	魚類防疫対策事業(S56～H28)
分野名: 外来魚の駆除対策技術開発 コメント: 水産被害の防止及び生態系の保全という観点から全体的に取り組む必要がある。	外来魚駆除調査(H14～H20)	水産資源に危害を及ぼす生物の被害防除(H21～28)	水産資源に危害を及ぼす生物の被害防除(H21～28)
コアコンピタンスの分野(選択的に維持)	課題名・事業名	課題名・事業名	課題名・事業名
分野名: 沿岸域の漁場環境調査 コメント: ハタハタの漁場形成及び沿岸契機には水温環境が大きく影響するほか、ハタハタ、マダラ、ヒラメ・カレイ類などの資源状況は沿岸環境の影響を大きく受けることから、これらの関係を明らかにする。	沿岸域環境把握調査(S42～H20)	ふるさとの海の恵みを守る研究(H21～28)	ふるさとの海の恵みを守る研究(H21～28)
分野名: 新魚種及び技術移転に係る研究・業務 コメント: トラフグ放流技術については、事業化の検討を行う。メバル類など新魚種の種苗生産・放流技術開発を選択的に展開する。種苗生産事業の移管後は、事業の受け入れ先への技術指導を継続する。	種苗生産・放流技術開発(トラフグ及び新魚種)(H7～28)	種苗生産・放流技術開発(トラフグ及び新魚種)(H7～28)	種苗生産・放流技術開発(トラフグ及び新魚種)(H7～28)
分野名: 八郎湖水産資源調査 コメント: 資源管理による漁獲維持を図るため、資源量の把握や評価に係る基礎調査を行う。	八郎湖水産資源調査(S41～H20)	指定湖沼八郎湖の水族保全(H21～28)	指定湖沼八郎湖の水族保全(H21～28)
分野名: 河川水産資源調査 コメント: アユについて、遡上状況や生育状況に関する調査を継続する行う。	河川水産資源調査(アユ)(S57～H20)	三大河川最重要魚種アユの増大(H21～28)	三大河川最重要魚種アユの増大(H21～28)

研究課題一覧表

場所名

水産振興センター

選択・集中化する分類	短期計画 (19～20年)	中期計画 (21～23年)	長期計画 (24～28年)
<b>コアコンピタンスの分野(選択的に維持)</b>	<b>課題名・事業名</b>	<b>課題名・事業名</b>	<b>課題名・事業名</b>
分野名: 十和田湖水産資源調査 コメント: 資源管理による漁獲の維持を図るための資源量の把握や評価に係る基礎調査を維持する。	十和田湖水産資源調査(S42～H20)	十和田湖観光資源ヒメマスの維持増殖(H21～28)	十和田湖観光資源ヒメマスの維持増殖(H21～28)
<b>縮小する分野</b>	<b>課題名・事業名</b>	<b>課題名・事業名</b>	<b>課題名・事業名</b>
分野名: サケの増殖技術開発 コメント: 調査河川を限定し、回帰鯉魚の年齢組成、回帰状況の把握を継続する。ふ化場に対する増殖技術指導については継続する。	サケ・リバイバル事業(H11～28)	サケ・リバイバル事業(H11～28)	サケ・リバイバル事業(H11～28)
<b>撤退する分野</b>	<b>課題名・事業名</b>	<b>課題名・事業名</b>	<b>課題名・事業名</b>
分野名: 人工魚礁・増殖場の効果把握に関する研究 コメント: 位置確認、効果実態は研究課題を設定する要素が少なく中止する。	人工魚礁・増殖場関連調査(S61～H18)		
分野名: 広域的な海洋構造に関する研究 コメント: 国が主体となるべき分野であり、短期的に縮小する。	沖合海域海洋構造把握調査(H9～H18)		
分野名: エチゼンクラゲによる被害軽減対策 コメント: 緊急的課題であり、漁具開発及び普及を図り終了する。	エチゼンクラゲによる被害軽減対策(H17～21)	エチゼンクラゲによる被害軽減対策(H17～21)	
分野名: 種苗生産・放流技術開発 コメント: マダイ、ヒラメは短期的に、ガザミは中期的に事業化を図り、クロソイは養殖業者の動向を勘案しながら中期的に終了する。自県産アユ種苗の供給は、生態系保全の観点からも継続の必要があるが、事業移管を検討する。各魚種の事業移管後については技術指導を継続する。	種苗生産・放流技術開発(マダイ技術移転)(S55～H20) 種苗生産・放流技術開発(ヒラメ技術移転)(S55～H20) 種苗生産・放流技術開発(ガザミ)(S55～H23) 種苗生産(クロソイ)(S55～H23) 種苗生産(アユ)(S55～H23)	種苗生産・放流技術開発(ガザミ技術移転)(S55～H23) 種苗生産(クロソイ)(S55～H23) 種苗生産(アユ)(S55～H23)	
分野名: 内水面増養殖に係る新魚種開発試験 コメント: カジカ及びモクスガニ増養殖技術開発は、今後の普及可能性を考慮し中止する。	新魚種開発試験(カジカ)(H11～20) 新魚種開発試験(モクスガニ)(H11～20)		
分野名: 希少種資源増殖技術確立試験 コメント: 希少種資源増殖技術確立試験(イワナ)は、系群保存技術を確立し終了する。	希少種資源増殖技術確立試験(イワナ)(H11～22)	希少種資源増殖技術確立試験(イワナ)(H11～22)	
分野名: 秋田固有遺伝資源増大開発試験 コメント: 自県産アユ種苗の供給は、生態系保全の観点からも継続の必要があるが、事業移管を検討する。	秋田固有遺伝資源増大開発試験(アユ)(H11～22)	秋田固有遺伝資源増大開発試験(アユ)(H11～22)	
分野名: 溪流魚の増殖と溪畔林の機能に関する研究 コメント: 溪流魚の増殖と溪畔林の機能に関する研究は、当初目的が得られたので終了したので撤退する。	溪流魚の増殖と溪畔林の機能に関する研究(H10～18)		
<b>アライアンス(連携・機能分担・相互補完分野)</b>	<b>課題名・事業名</b>	<b>課題名・事業名</b>	<b>課題名・事業名</b>
分野名: 我が国周辺水域資源調査 コメント: 広域回遊魚種の資源動向については、国及び各県と連携・役割分担をしながら現行調査への参画を継続する。	我が国周辺水域資源調査(H17～28)	我が国周辺水域資源調査(H17～28)	我が国周辺水域資源調査(H17～28)

## (2)平成21年度実施課題

### 課題一覧

課題番号	課題名	研究期間	当初予算 (千円)	分担	頁
1	ふるさとの海の恵みを守る研究	H21～25	2,802	海洋資源部	18
2	水産資源変動要因調査	H13～22	5,289	海洋資源部	19
3	我が国周辺水域資源調査	H17～21	6,416	海洋資源部	20
4	大型クラゲ出現調査及び情報提供事業	H18～23	2,150	海洋資源部	21
5	エチゼンクラゲによる被害軽減対策に関する研究	H19～21	457	海洋資源部	22
6	種苗生産事業	S55～H22	11,373	資源増殖部	23
7	ハタハタ資源増大技術開発事業	H17～21	6,524	資源増殖部	24
8	イワガキ資源添加技術の開発	H20～24	527	資源増殖部	25
9	磯根漁場高度利用化技術の確立	H19～23	913	資源増殖部	26
10	秋田の川と湖を守り豊かにする研究	H21～25	1,581	内水面利用部	27
11	内水面総合技術開発試験	H11～22	3,972	内水面利用部	28
12	サクラマス産卵場の保全と回復に関する研究	H19～21	1,000	内水面利用部	29

## 課題内容

課題番号 1	課題名 ふるさとの海の恵みを守る研究	
研究期間：新規 H21～25 担当部：海洋資源部 共同研究：	当初予算 2,802(千円) (内訳)国庫 180 一般 2,622 その他	
<b>研究の目的</b> 本県沿岸の水・底質及び生物相の調査を行い、環境の経年変化を把握し、漁場環境の保全を図るための基礎資料とする。また、沿岸地先及び底びき網漁場の水温観測を継続実施し、水産資源の変動や漁況への影響を解明する。		
<b>試験計画</b> (1)沿岸定点観測(H21～25) (2)沿岸定地水温観測(H21～25) (3)沿岸定点調査(H21～25) (4)生物相・化学分析試験(H21～25)		
<b>実績・成果</b>  (H21新規事業)		

課題番号 2	課題名 水産資源変動要因調査	
研究期間： 継続 H13～H22 担当部： 海洋資源部 共同研究：	当初予算 5,289(千円) (内訳)国庫 一般 4,788 その他 501	
<b>研究の目的</b> 本県沿岸の底びき網漁場に分布するハタハタ、マダラ、ヒラメ、マガレイ、アカガレイ、ズワイガニなどを対象に生活史と分布状況について、調査船千秋丸の底びき網試験操業により解明するとともに、第二千秋丸や民間船のひき網調査により重要種の稚魚の発生状況を継続観測する。		
<b>試験計画</b> (1)底生魚類稚魚調査(H21～25) (2)水産資源調査(H21～25)		
<b>実績・成果</b> (1)ハタハタについて、2008年生まれの資源量が近年になく多かったことが推定された。 (2)マダラについて、稚魚の発生状況・分布状況などを把握した。 (3)主要なカレイ類について、漁獲状況、成熟度などを調査し、資源変動について考察した。		



課題番号 3	課題名 我が国周辺水域資源調査
研究期間： 継続 H17～21 担当部： 海洋資源部 共同研究：	当初予算 6,416(千円) (内訳)国庫 一般 その他 6,416
<b>研究の目的</b> 我が国周辺水域内の水産資源の状況や動向をよりの確に把握し、その保存・管理に関する施策の実施に必要な基礎資料を整備するための調査などを行う。	
<b>試験計画</b> (1)漁場別漁獲状況調査(H19～21) (2)生物情報収集調査(H19～21) (3)沿岸資源動向調査(H19～21) (4)漁場一斉調査(H19～21) (5)沖合海洋観測等調査(H19～21) (6)新規加入量調査(H19～21)	
<b>実績・成果</b> (1)月別の小型底びき網、ベニズワイガニかご漁業の漁獲成績報告書を収集し、FRESCOに入力した。 (2)月別の漁業種類別漁獲量を集計した。 (3)ウスメバルの月別漁業種類別漁獲量を集計した。 (4)スルメイカ、ズワイガニ、ハタハタについて、試験操業により資源状態を把握した。 (5)4～6月、10、11、3月に「沿二ー10線」において、海洋観測及び卵稚仔採集を実施した。 (6)ヒラメについて、底びき網試験操業で新規加入量を把握した。	

課題番号 4	課題名 大型クラゲ出現調査及び情報提供事業	
研究期間： 継続 H18～23 担当部： 海洋資源部 共同研究：	当初予算 2,150(千円) (内訳)国庫 一般 その他 2,150	
<b>研究の目的</b> 大量来遊の恒常化が懸念される大型クラゲについて、本県海域への来遊状況をモニタリングし、関係機関等へ迅速に情報提供を行う。		
<b>試験計画</b> (1)大型クラゲ出現調査(H18～23) (2)大型クラゲ出現聞き取り調査(H18～23)		
<b>実績・成果</b> (1) 千秋丸による海面の目視調査及び底びき網試験操業による大型クラゲ入網状況を把握のための調査を行った。 (2) 底びき網漁業者、定置網漁業者6経営体を対象に、毎操業時の大型クラゲの入網状況について調査を行った。 (3) これらの結果から、本年度は秋田県沖合への来遊がほとんどなかったと推測された。		

課題番号 5	課題名 エチゼンクラゲによる被害軽減対策	
研究期間： 継続 H19～21 担当部： 海洋資源部 共同研究：	当初予算 457(千円) (内訳)国庫 一般 457 その他	
<b>研究の目的</b> 大量来遊の恒常化が懸念されるエチゼンクラゲについて、底びき網及び定置網の漁業被害を軽減する漁具改良を検討するとともに、民間漁業者の持つ情報を活用した来遊情報の収集と広報手法の確立を図る。		
<b>試験計画</b> (1)大型クラゲ進入防除網を使用した試験操業及び技術開発(H19～21) (2)定置網の漁具改良対策及び成果に関する情報の収集・提供(H19～21)		
<b>実績・成果</b> (1)本年度はエチゼンクラゲの発生が少なく、千秋丸による試験操業でも入網は皆無であった。 (2)改良漁具については、水産振興センターが開発した漁具の有効性が実証された。		

課題番号 6	課題名 種苗生産事業
研究期間： 継続 S55～H22 担当部： 資源増殖部 共同研究：	当初予算 11,373(千円) (内訳)国庫 一般 5,724 その他 5,649
<b>研究の目的</b> 種苗生産技術を確立することにより、有用資源を人為的に添加し、漁業生産の増大を図るとともに県内漁協及び養殖業者の要望により種苗を有料配布する。また、秋田湾天王沖を産卵場とするトラフグ系群を確認したことから、その種苗生産技術を確立し、放流効果の検討を行い、資源を添加することにより、水産業の振興に資する。	
<b>試験計画</b> (1)種苗生産事業(H19～22) (2)トラフグ種苗生産技術開発試験(H18～22)	
<b>実績・成果</b> (1) ワムシ(餌料プランクトン)の生産及び保存(冷凍)について検討し、コストの低減、作業の平準化、廃棄ワムシの低減等について成果が得られた。また、ワムシ培養の効率化のためのマニュアルを作成した。 (2) トラフグについては、照度を抑えることによって噛み合いによる尾鰭の欠損率を低下できることが判った。また、底掃除を削減することにより、飼育環境の悪化による稚魚の大量斃死や疾病の発生を抑えられることが判った。 また、標識放流及び稚魚の調査により成長・移動について考察した。 (3) アユについては、アルテミア(餌料プランクトン)の給餌を控えることにより、経費の削減や省力化を図れることが判った。 (4) クロソイについては種苗生産技術を確立したことから、21年度から(財)秋田県栽培漁業協会に生産を移管することとした。	

課題番号 7	課題名 八タ八タ資源増大技術開発事業	
研究期間： 継続 H17～21 担当部： 資源増殖部 共同研究：	当初予算 6,524(千円) (内訳)国庫 一般 6,524 その他	
<b>研究の目的</b> これまで全長30mmの種苗を3,500万尾生産する技術の平準化に達したが、放流効果を高めるために、大型種苗の生産から放流に至るまでの技術を確立する。 また、現在の発眼卵でのALC標識が放流後約1年で不明瞭になることが判明したため、長期間明瞭に確認できる稚魚での標識技術を確立する。		
<b>試験計画</b> (1)大型種苗生産技術の確立(H17～21) (2)大型稚魚輸送技術の確立(H17～18) (3)中間育成技術の確立(H17～19) (4)稚魚標識技術の確立(H17～19) (5)放流追跡調査(H19～21) (6)標識魚の輸送・放流調査(H17)		
<b>実績・成果</b> (1) 卵管理施設の簡便化や使用水量の削減等を目的とした“シャワー式管理手法”の開発を進め、管理手法改善の可能性を見いだすことが出来た。 (2) 八タ八タ卵の機械的衝撃への耐性について検討した。 (3) 網生簀での仔稚魚飼育において、餌料補給のために夜間照明を用いて動物プランクトンを蝸集させているが、これらの発生量と発生時期が仔稚魚の生残と成長に寄与している可能性が示唆された。 (4) ALC標識を施した稚魚を追跡した結果、人工種苗が天然群に順調に添加されたことが推測され、4月下旬に戸賀から放流することにより、効率的に資源転化を行える可能性が示唆された。		

課題番号 8	課題名 イワガキの資源添加技術の開発について	
研究期間： 継続 H20～24 担当部： 資源増殖部 共同研究：	当初予算 527(千円) (内訳)国庫 一般 527 その他	
<b>研究の目的</b> イワガキ資源の持続的利用手法の確立を図るため、イワガキ稚貝が再付着しにくい原因を明らかにするとともに、人為的に稚貝を添加するための技術開発を行う。また、食害生物の除去手法を開発する		
<b>試験計画</b> (1)イワガキ再付着阻害要因の解明(H20～24) (2)イワガキ稚貝添加技術の開発(H20～24) (3)イワガキ稚貝食害対策の検討(H20～22)		
<b>実績・成果</b> (1)塩化ビニール製の採苗プレートを戸賀湾内の生簀に垂下し、イワガキ幼生の採集を試みたが、ホタテ貝殻と同等の付着は認められなかった。 (2)今後、付着基質の適性について検討する必要がある。		

課題番号 9	課題名 磯根漁場高度利用化技術の確立	
研究期間： 継続 H19～23 担当部： 資源増殖部 共同研究：	当初予算 913(千円) (内訳)国庫 一般 913 その他	
<b>研究の目的</b> 沿岸漁業生産の飛躍的な向上のために、その生産基盤である海の森と、そこに棲むアワビやウニを健全に維持するための増殖技術を開発する。		
<b>試験計画</b> (1)アワビの生活領域と海藻群落の関係(H19～20) (2)アワビの資源変動と環境条件との把握(H21～22) (3)磯根漁場高度利用技術の確立(H23)		
<b>実績・成果</b> (1) 県南部地先において、天然餌料海藻とアワビの成長について把握した。 (2) 2008年漁期において、漁獲物に占める放流貝の割合は30.2%であることが判った。		

課題番号 10	課題名 秋田の川と湖を守り豊かにする研究	
研究期間： 継続 H21～25 担当部： 内水面利用部 共同研究： 青森県水産総合研究センター 内水面水産研究所	当初予算 1,581(千円) (内訳)国庫 一般 1,581 その他	
<b>研究の目的</b> 八郎湖における水産資源と生息環境の関連把握、十和田湖におけるヒメマス資源の増殖・管理手法の提示、アユ資源の変動要因の解明及び外来魚やカワウの効果的な駆除方法の確立に関する研究を行い、秋田の川と湖を守り豊かにする。		
<b>試験計画</b> (1) 指定湖沼八郎湖の水族保全(H21～25) (2) 十和田湖観光資源ヒメマスの維持・培養(H21～25) (3) 三大河川最重要魚種アユの増大(H21～25) (4) 水産資源に危害を及ぼす生物の被害防除(H21～25)		
<b>実績・成果</b>  (H21新規事業)		



課題番号 11	課題名 内水面総合技術開発試験	
研究期間： 継続 H11～22 担当部： 内水面利用部 共同研究：	当初予算 3,972(千円) (内訳)国庫 一般 3,964 その他 8	
<b>研究の目的</b> 内水面試験池において、秋田県の固有あるいは希少資源の保護に対応する増殖技術の確立のための各種試験を実施する。また、サケ及びサクラマス資源の維持増大を図るため、増殖効率を高める調査、試験、技術開発などを行う。		
<b>試験計画</b> (1)内水面総合技術開発試験(H11～22) 希少種資源増殖技術確立試験(H11～22) 秋田県固有遺伝資源増大開発試験(H11～22) 新魚種開発試験(H11～22) (2)サケ・マス資源管理推進事業(H15～22) サケ・リバイバル事業(H15～22) サクラマス・リバイバル事業(H15～22)		
<b>実績・成果</b> (1) 親魚採捕の際の運搬方法の改善により、親魚養成における生残率を大きく高めることが出来た。 (2) サクラマスF1及びF2稚魚の生産において、給餌方法の改善及び選別育成により順調な成長が認められた。		

課題番号 12	課題名 サクラマス産卵場の保全と回復に関する研究	
研究期間： 継続 H19～21 担 当 部： 内水面利用部 共同研究：	当初予算 1,000(千円) (内訳)国庫 一般 その他 1,000	
<p>研究の目的</p> <p>サクラマス資源の減少の背景には、ダム、堰堤などの河川工作物による遡上阻害のため産卵場まで到達できる親魚の減少が考えられている。また、遡上を阻まれた親魚は、これら工作物下流の不適な環境での産卵を余儀なくされる。そこで、これら工作物下流での産卵と卵・仔魚の減耗実態について明らかにするとともに、工作物を通過できる簡易的な魚道の開発と、卵・仔魚の生残を高める人工産卵床を造成する技術の開発を行う。</p>		
<p>試験計画</p> <p>(1)サクラマス産卵生態の解明と、河川工作物下流の産卵場における卵・仔魚の減耗実態の把握(H19～20)</p> <p>(2)安価で、簡便に作成・設置が可能な魚道の開発(H19～21)</p> <p>(3)安価で簡便な人工産卵場造成技術の開発(H20～21)</p>		
<p>実績・成果</p> <p>(1) サクラマスの遡上を助長するため、簡易魚道を頭首工に設置して調査した結果、上流でサクラマスの産卵が確認されたことから、低コストでサクラマス資源を増大させる可能性が示唆された。</p> <p>(2) 人工産卵場の作成については、天然魚の産卵は認められなかったものの、造成場所の適正な選定により効果が出ると推測された。</p>		

### (3)平成20年度終了課題報告

課題名 沿岸域環境把握調査	
研究期間： S42～H20 担当部： 海洋資源部 共同研究：	決算総額 - (千円) (内訳)国庫 一般 その他
<b>研究の目的</b> 本県沿岸の水・底質及び生物相の調査を行い、環境の経年変化を把握し、漁場環境の保全を図るための基礎資料とする。また、沿岸地先及び底びき網漁場の水温観測を継続実施し、水産資源の変動や漁況への影響を解明する。	
<b>試験内容</b> (1) 沖合定点調査 (2) 沿岸定地水温観測 (3) 沿岸定点調査 (4) 生物相・化学分析試験	
<b>成果のまとめ</b> (1) 沿岸に流入する河川水や産業排水等から水生生物の環境を保全するため、沿岸域の水質、底質及び生物相を把握した。 (2) また、調査船千秋丸及び第二千秋丸を用いて、沿岸部における水温、塩分等のモニタリングを実施した。	

課題名 内水面水産資源調査	
研究期間： S41～H20 担当部： 内水面利用部 共同研究：	決算総額 - (千円) (内訳)国庫 一般 その他
<p>研究の目的</p> <p>内水面において河川・湖沼の環境特性と生産力に対応した資源の合理的利用に関する研究として、八郎湖におけるシジミやワカサギなどの資源動向、河川における天然アユの遡上状況、流下仔魚などに関する研究及びオオクチバスなどの外来魚の駆除に関する調査を行う。さらに、青森県と共同で十和田湖のヒメマス資源の安定化を目的とした餌料環境等の調査を実施する。</p>	
<p>試験内容</p> <p>(1) 八郎湖水産資源調査 (2) 河川水産資源調査 (3) 外来魚駆除調査 (4) 十和田湖資源対策調査</p>	
<p>成果のまとめ</p> <p>(1) 八郎湖の生息魚介類の生態や動向に影響を及ぼす水質環境、生物環境(水質、プランクトン及びベントス)を把握するとともに、重要魚種であるワカサギ、シラウオ等の資源状況を調査した。</p> <p>(2) 遊漁の対象として重要なアユについて、天然稚魚の遡上、成育、釣獲などについて状況の把握及び漁協等への情報提供を行った。</p> <p>(3) 既存の水産資源や生態系に大きな被害をもたらす外来魚の影響を軽減するため、八郎湖や溜池においてオオクチバスの生息状況を把握するとともに、漁協等による駆除の指導を行ったほか再放流禁止の遵守状況を調査した。</p> <p>(4) ヒメマス資源の安定化を図るため、ヒメマス及び餌料が競合するワカサギ、並びに餌料プランクトン等の状況を把握した。</p>	

## 6 主要行事・会議等

### (1) 主要行事・会議

行事・会議	開催日	開催場所
秋田県内水面漁業協同組合連合会理事会	H20. 4.10	秋田市
地域振興局農林部長・機関長会議	H20. 4.21	秋田市
第1回農林水産技術センター場所長会	H20. 4.25	秋田市
全国湖沼河川養殖研究会第1回理事会	H20. 5.15	東京都
八郎湖研究会	H20. 5.27	秋田市
地域水産試験研究推進協議会	H20. 6.25	東京都
全国水産試験場長会第3回役員会	H20. 6.25	東京都
十和田湖ヒメマス放流式	H20. 6.25	小坂町
船川港湾振興会定時総会	H20. 6.27	男鹿市
水産振興センター参観デー	H20. 8. 9	男鹿市
北部日本海ブロック水試連絡協議会	H20. 7.15-16	石川県
水産振興センター研究運営協議会	H20. 9. 8	水産振興センター
全国湖沼河川養殖研究会第2回理事会	H20. 9. 4	大分県
全国湖沼河川養殖研究会第81回大会	H20. 9.4-5	大分県
第2回農林水産技術センター場所長会	H20.10.15	秋田市
全国水産試験場長会第4回役員会	H20.10.22-23	北海道
内水面関係研究開発推進会議	H20.12.11-12	栃木県
日本海ブロック水産業関係研究開発推進会議	H20.12.19-20	新潟県
日本海ブロック場所長会議	H19.12.20	新潟県
秋田県青年女性漁業者交流大会	H20. 1.16	秋田市生涯学習センター
全国湖沼河川養殖研究会第3回理事会	H21. 1.29	東京都
水産関係試験研究機関長会議	H20. 1.30	農林水産省
全国内水面水産試験場長会総会	H20. 1.31	中央水産研究所
全国水産試験場長会総会	H20. 1.31	中央水産研究所
第3回農林水産技術センター場所長会	H21. 3.11	秋田市

### (2) 研究管理のための場内会議・検討会

会議・検討会	開催日	開催場所
試験研究中間検討会	H20.10.28-29	水産振興センター講義室
試験研究成果検討会	H21.3.4-6	"

## 7 技術支援

### (1) 委員委嘱

名 称	役 職	職 名	氏 名
「緊急・広域外来魚等対策推進事業」に係る検討会	委員	所長	杉山秀樹
外来魚抑制管理技術開発事業検討会	委員	所長	杉山秀樹
湖沼漁場改善技術検討委員会	委員	内水面利用部長	渋谷和治
航空防除推進協議会事故防止対策委員会	委員	内水面利用部長	渋谷和治
阿仁川河川整備計画策定検討委員会	委員	内水面利用部長	渋谷和治
平鹿平野地区基幹水利施設環境保全整備 計画検討委員会	委員	所長	杉山秀樹
秋田県レッドデータブック改訂委員会	委員	所長	杉山秀樹
秋田市環境審議会	委員	所長	杉山秀樹
船川港港湾振興会	委員	所長	杉山秀樹

### (2) 講師派遣

月・日	主催者	内 容	担当部	派遣者
H20 5.10	男鹿市立男鹿東中学校	栽培漁業	資源増殖部	齋藤寿
20	若美公民館	ハタハタの資源の管理	管理室	杉山秀樹
6. 5	男鹿市立南中学校	外来魚問題	内水面利用部	渋谷和治
12	男鹿市立南中学校	栽培漁業	資源増殖部	齋藤寿
17	土崎港商友会	ハタハタの資源の管理	管理室	杉山秀樹
19	男鹿市立南中学校	ハタハタの管理の資源	海洋資源部	工藤裕紀
7.26 27	秋田市港湾貿易振興課	ハタハタの資源と管理	管理室	杉山秀樹
29	石川清流の会	外来魚問題	内水面利用部	渋谷和治
9. 7	箱井清流会	外来魚問題	内水面利用部	渋谷和治
19	八峰町立埴川小学校	外来魚問題	内水面利用部	渋谷和治
11. 12	秋田ロータリークラブ	ハタハタの資源と管理	海洋資源部	甲本亮太
11. 26	羽後町立三輪小学校	ハタハタの資源と管理	管理室	杉山秀樹
12. 2	男鹿市立船川南小学校	秋田の海	管理室	杉山秀樹
12. 11	湯沢市雄勝郡小中学校長会	外来魚問題	内水面利用部	渋谷和治

### (3) 受入研修

#### インターンシップ事業

期 間	研修者の所属・数	内 容
H20.9.17～19	秋田県立大学 生物資源科学部 3人	八郎湖・河川における水産資源調査 海産魚及びプランクトンの分類 トラフグの稚魚調査、マダイの標識放流

## 8 研究成果の発表・広報

### (1)主要刊行物の発行状況

誌名	発行時期	部数等	備考
平成19年度事業報告書	H21年3月	220部	美の国ネットへ概要掲載

### (2)不定期刊行物の発行状況

誌名	発行時期	部数等	備考
群来(第65号)	H20年12月	600部	美の国ネットへ掲載

### (3)実用化できる試験研究成果(平成20年度試験研究成果)

事項	内容	研究期間	担当部
参考	ハタハタ、マダラ卓越年級の発生について	H20	海洋資源部
参考	阿仁川に遡上した天然稚アユの親魚養成と採卵技術の確立	H20	内水面利用部
研究スポット	男鹿市北浦沿岸の藻場の消失と再生	H19-20	資源増殖部

### (5)学会発表・研究会発表

学会等の名称	月日	開催場所	題目	発表者
2008年度日本魚類学会年会	H20.9.23	愛媛大学	雄物川水系に生息するハナカジカ雄による孵化仔魚への保護行動	熊谷雅之・杉山秀樹・後藤晃
"	"	"	秋田市立大森山動物園内の溜池に生息するゼニタナゴの生息域内保全	杉山秀樹・草薙利美・小松守
2008年度日本水産学会東北支部大会	H20.11.7	山形県鶴岡市	日本海北部海域に出現する南方性魚類をどのように考えるか - 海洋の温暖化? 死滅回遊? 偉大なる開拓者? -	杉山秀樹
大学改革シンポジウム	H20.11.15	山形県遊佐町	ハタハタやイワガキも湧水を必要としている	杉山秀樹

### (6)新聞等への掲載

誌名等	掲載月日	内容	担当部
秋田魁	H20.4.22	・ハタハタ稚魚放流がスタート	資源増殖部
朝日・読売・魁	H20.4.24	・湯沢市でウグイなど300尾斃死	内水面利用部
朝日・読売・魁	H20.4.25	・湯沢市の魚類斃死の死因不明	内水面利用部
朝日・読売	H20.5.1	・男鹿にクジラ漂着	企画管理班
秋田魁	H20.5.5	・ハタハタ稚魚、放流して追跡	資源増殖部

誌名等	掲載月日	内 容	担 当 部
秋田魁	H20.5.29	・旭川にアユの稚魚放流	内水面利用部
秋田魁	H20.5.31	・ハタハタ、イワガキに川とわき水の保全が重要	杉山所長
朝日	H20.6.5	・爆弾低気圧による藻場の消失	海洋資源部
読売・魁	H20.6.6	・迷入したミンク鯨、浅瀬から救助	企画管理班
秋田魁	H20.7.19	・秋田市で外来魚の個体数確認	内水面利用部
魁・朝日・読売	H20.10.22	・ハタハタ漁獲枠3,000トン	海洋資源部
朝日	H20.11.20	・ハタハタ漁、好調な出足	海洋資源部
秋田魁・読売	H20.11.20	・季節ハタハタ、初漁は11月28日頃	海洋資源部
秋田魁	H20.11.28	・ハタハタ本隊接岸	海洋資源部
朝日	H20.12.14	・ハタハタ大漁	海洋資源部
秋田魁	H20.12.19	・各地で豊漁、安値に	海洋資源部
朝日	H20.12.26	・「ブリコ」拾ったら罪」	海洋資源部
秋田魁	H20.12.26	・男鹿市北浦で漁業者が打ち上げブリコを回収	資源増殖部

### (7)ホームページの更新

月日	内 容
H20 4. 1	漁海況情報 1～12月
4. 2	漁況旬報 3月上旬
4. 2	漁海況情報 3月分
4.12	漁況旬報 3月中旬
4.28	漁況旬報 3月下旬
5. 1	漁況旬報 4月上旬
5.12	海洋観測結果 4月
5.12	漁況旬報 4月下旬
5.21	海洋観測結果 5月
6. 5	漁況旬報 5月上旬
6.13	漁況旬報 5月中旬
6.13	漁況旬報 5月下旬
6.24	海洋観測結果 6月
7. 4	漁況旬報 6月上旬
7.22	漁況旬報 6月中旬
7.22	漁況旬報 6月下旬
8. 4	漁況旬報 7月上旬
8.25	漁況旬報 7月中旬
9.17	海洋観測結果 9月
9.25	漁況旬報 7月下旬
9.25	漁況旬報 8月上旬
9.25	漁況旬報 8月中旬
9.25	漁況旬報 8月下旬
9.25	漁況旬報 9月上旬
10.20	漁況旬報 9月中旬



( 続き )

月日	内 容
10.20	漁況旬報 9月下旬
10.20	海洋観測結果 10月
10.24	八夕八夕資源対策協議会 平成20年度第1回資料
11.12	漁況旬報 10月上旬
11.12	漁況旬報 10月中旬
11.19	海洋観測結果 11月
11.19	八夕八夕資源対策協議会 平成19年度第2回資料
11.20	秋田県における八夕八夕漁獲量の推移
12. 4	漁況旬報 10月下旬
12. 4	漁況旬報 11月上旬
12. 4	漁況旬報 11月中旬
12.22	漁況旬報 11月下旬
12.25	群来第65号
12.25	漁況旬報 12月上旬
H21. 1.13	漁況旬報 12月中旬
1.16	漁況旬報 12月下旬
土日祝日 を除く毎日	きょうの海水温

・コンテンツアクセス数

コンテンツ	アクセスの概数(件)
きょうの海水温	11,000
海洋観測結果	1,100
漁海況情報	1,100
漁況旬報	3,200
大型クラゲ情報	700
八夕八夕資源対策協議会	700
見学・研修の手引き	700
群来	900

## 9 知的財産

### (1)特許関連一覧

NO	特許の名称	発明者	共同出願者	特許出願日 出願番号	出願公開 公開番号	特許登録 登録番号	備考
1	- アミノ酪酸強化発酵食品の製造方法	船木勉	総合食品研究所	H15.8.6 特願2003-287680	H17.3.3 特開2005-52103		
2	ハタハタ卵巣由来の粘質物、その取得方法および用途	杉山秀樹、船木勉	総合食品研究所	H15.9.8 特願2003-315142	H17.3.31 特開2005-82525		

## 10 職員の研修

研修の名称	主催者(期間)	研修内容	所属 氏名
養殖衛生管理技術者養成特別 コース研修	水産資源保護協会 (H20.9.9-10)	魚病検査技術の習得	内水面利用部 伊勢谷修弘
薬事監視講習会	農林水産省 (H20.10.17)	養殖における適正な薬 剤利用の指導監視	内水面利用部 水谷寿
栽培漁業技術研修	(独)水産総合研究 センター (H21.2.17-19)	トラフグの種苗生産及 び放流に関する技術習 得	資源増殖部 斎藤和敬

## 11 視察・見学・総合学習

(人)

月・日	視察・見学者	見学者数
H20. 5.8	五里合小学校(5年)	9
H20. 6.10	男鹿海洋高校(2年)	15
H20. 6.10	一般	7
H20. 6.12	男鹿海洋高校(1年)	38
H20. 6.13	男鹿海洋高校(1年)	37
H20. 6.20	秋田市立泉小学校(5年)	103
H20. 6.24	大久保小学校(5年)	56
H20. 6.26	潟上市昭和石川顕彰会	20
H20. 6.26	男鹿市立南中学校(2年)	20
H20. 7.1	土崎公民館	82
H20. 7.2	青森東通村 つくり育てる農林水産課	10
H20. 7.8	保戸野小学校(5年)	52
H20. 7.8	勝平中学校(2年)	4
H20. 7.8	平沢町漁業者	10
H20. 7.8	潟西中学校(3年)	1
H20. 7.9	上小阿仁小学校(5年)	32
H20. 7.10	土崎公民館	12
H20. 7.11	八橋小学校(5年)	78
H20. 7.15	刈和野小学校(5年)	40
H20. 7.16	秋田県障害者自立訓練センター	10
H20. 7.17	大仙市豊成中学校(2年)	3
H20. 8.15	ツバサ広業(株)	5
H20. 8.26	三種町鹿渡新珠会	21
H20. 8.28	平鹿中学校(3年)	1
H20. 9.4	大仙市四ッ谷小学校(5年)	34
H20. 9.5	三種町湖北小学校(4年)	40
H20.9.10	秋田市北部地区憲章会役員	20
H20.9.10	船越小学校(3年)	64
H20.9.17	帝水ホテル 宿泊客	20
H20.9.18	宮古漁業協同組合青壮年部	15

( 続き )

( 人 )

月・日	視察・見学者	見学者数
H20.9.22	能代市竹生小学校(全校)	35
H20.10.2	潟上市健康推進課 食生活改善推進委員会	35
H20.10.7	秋田市土崎中学校(1年)	33
H20.10.14	井川町退職者会	20
H20.10.24	飯島中学校(2年)	6
H20.10.29	鵜木小学校(3年)	12
H20.11.5	雄和中学校(1.2年生)	11
H20.11.27	大仙市双葉小学校(4年)	13
	小 計	1,024
H20.8.9	水産振興センター参観デー	244
	小 計	244
	合 計	1,268